

提出締切：2009年4月20日（月）

2007年度採択学内提案公募型研究推進プログラム「基盤的研究」 研究成果報告書  
(研究期間：2007年4月～2009年3月まで)

研究代表者	所属機関・職名：国際関係学部 教授 氏名：中川涼司
研究テーマ	知識の公共性と私的性格の相克から見た知識資本と世界経済の研究

### I. 研究計画の概要

研究の計画について、概要を記述ください。

かつて、P.F.ドラッカーは知識が重要な役割を果たす社会を「知識社会」と呼び、『ポスト資本主義社会』の中で、「知識」が、労働、資本、土地とならぶ一つの資源というよりも、唯一の意味ある資源であるとした。また、A.トフラーは『パワーシフト』の中で知識が高質な力の源泉であり、来るべきパワーシフトの鍵を握っているとしている。われわれは単なる生産要素や権力の源泉としての知識というだけでなく、知識というものが固有に持つ「公共性」とその私的な生産や利用の矛盾が国際経済社会においてどのような形で現れているか、ということの問題にする。これらの課題解明のために3チームを組み、研究を行った。知識資本主義チーム（知識資本、知識資本主義の理論とその性格、知識資本主義化の現段階の解明）、知的財産権チーム（知識資本主義の核心ともいえる知的財産権を巡る法制度、国際通商制度と多国籍企業の競争優位およびそこにおける公共性と私的性格の相克の分析）、知識消費産業チーム（知識消費産業としての映像ビジネス、ソフトビジネス、ネットビジネスの現状およびそれらにおける公共性と私的性格の相克の分析）

### II. 研究成果の概要

2カ年の研究成果について、概要を記述ください。成果の詳細は3ページに記述ください。

2年間で合計13回の研究会を開催し、先行研究の確認および各人・グループの研究報告を行った。また、アメリカ、ヨーロッパ、東京、北京において聞き取り調査を実施した。中間的な成果として各人が別紙のように論文として発表し、一部は学会報告となった。

当プロジェクトの成果は関下稔・板木雅彦・中川涼司編『知識資本主義と多国籍企業（仮題）』同友館、2010年として出版の予定である。章構成としては第1部 知識資本主義の台頭（第1章 知識資本の概念と知識資本主義の台頭、第2章 知識資本主義論の諸潮流と世界経済）、第2部 知識資本主義と多国籍企業 知的財産権を巡るジレンマ（第3章 アメリカの知的財産権産業と知的財産政策、第4章 国際通商体制における知的財産権 2 - ヨーロッパを中心に、第5章 中国の知的財産権問題とコンテンツビジネス、第6章 プロパテント政策とクリエイティブ・コモンズ、第7章 農産物特許とそのガバナンス、第8章 知識の経済的価値実現と政治的価値実現の間の矛盾とその解消 - 米国を事例に）、第3部 知識資本主義時代のビジネス・モデル 有効性と限界（第9章 映像ビジネス - ハリウッドビジネス・モデルとスクリーンクォータ制 第10章 IT産業のサービス化とオープンソース、第11章 コンサルティングファームの国際展開、第12章 日本ソフトウェアビジネスの諸問題、第13章 日本アニメ産業と知的財産権問題）、以上となる予定である。

本ページはホームページに公開いたします。1ページに収めてください。